

## 国語科指導案記入例

## 第2学年 国語科学習指導案

## R2年度 那覇市様式

## 年間指導計画 (1) 単元の概要

単元・教材名等	夏休みの思い出を報告しよう 第2学年 A 話すこと・聞くこと
内容のまとめ	第2学年 【知識及び技能】(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 【思考力、判断力、表現力等】「A話すこと・聞くこと」
単元の目標	(1) 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。 【知識及び技能】(1)才 (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】A (1)イ (3) 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 【思考力、判断力、表現力等】A (1)エ (4) <b>言葉がもつよさ</b> を感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、 <b>思いや考えを伝え合おうとする</b> 「学びに向かう力、人間性等」

単元名は、どのような「言語活動」を行なうかが分かるように工夫する。

## Step1 単元で取り上げる指導事項の確認

- ・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

## Step2 単元の目標と言語活動の設定

- ・Step1で確認した指導事項を基に、以下の3点について単元の目標を設定する。
- (1)「知識及び技能」の目標
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標

→(1), (2)については、基本的に指導事項の文末を「~できる。」として示す。

- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標

→(3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「**言葉がもつよさ~思いや考えを伝え合おうとする。**」までを示す。

## 【単元で取り上げる言語活動】

夏休みの思い出について報告したり、それらを聞いて感想を記述したりする。(関連: 言語活動例ア)

## Step2 単元の目標と言語活動の設定

- ・単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。

## 2 単元の評価規準

## Step3 単元の評価規準の設定

以下を参考に、単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。 (1)才	① 「 <b>話すこと・聞くこと</b> 」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 (A (1)イ) ② 「 <b>話すこと・聞くこと</b> 」において、話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 (A (1)エ)	① <u>① 進んで、相手に伝わるように</u> 話す事柄の順序を考え、 <u>② 見通しをもって報告しようとして</u> いる。
「知識・技能」の評価規準の設定の仕方 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」の指導事項の文末を「~している」として作成する。  育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。	「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方 当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の文末を「~している」と明記し、文末を「~している」として作成する。  育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。	「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方 以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、()内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。  ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等) ②自らの学習の調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等) ③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容) ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

## 「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」の指導事項の文末を「~している」として作成する。

育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

## 「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の文末を「~している」と明記し、文末を「~している」として作成する。

育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

## 板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

## 板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

## 3 単元について

## (1) 児童(生徒)観

レディネステストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。

- ・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述する。
- ・どこでどのようなつまづき(課題)があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動する。

## (2) 教材観

単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。

- ・学習指導要領との関連を示す。
- ・単元(題材)の学習内容と、そのねらいを記述する。
- ・適切な単元の構成内容であることを記述する。

## (3) 指導観

ねらい達成に向けて、どこで、どのような手立てをするのか、指導のポイントを記述する。

- ・(1) (2)の記述を踏まえ、子どもの不十分な点を補う手立てを具体的に記述する。
- ・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するかを記述する。

児童生徒の課題を踏まえ、言語活動を通して、指導事項を指導することを明確にした単元づくりをする。

## Step4 単元の指導と評価の計画の決定

・各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

## 4 単元の指導計画(全7時間)

《形》形成的評価 《総》総括的評価

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 次	○ 夏休みの思い出を報告するという学習の見通しをもつ。 ○ 夏休みの思い出を複数想起し、その中から友達に一番報告したいことを選ぶ。	・児童の伝えたいとする観点を記載する。 各時の学習内容とみどりの見通しをもつ。【知・技】 ・夏休みの思い出の中から友達に一番報告したいことを選んでいるか確認する。【思・判・表】 手掛かりにして、【主体的態度】	【思・判・表】《形》 ノート ・夏休みの思い出の中から友達に一番報告したいことを選んでいるか確認する。
2 ・ 3 二 次	○ 「始めー中ー終わり」といった話の構成で話すことを確認し、「始め」と「終わり」については先にノートに記述する。 ○ 「中」の部分については、第1時で選んだ一番報告したい思い出を詳しく想起して、必要な事柄を四つから六つ程度カードにそれぞれ書き出す。	・ <b>単元の評価基準</b> については、すべて「総括的評価」とする。 単元の評価基準と対応していることがわかるように番号をふるうとよい。 例【知・技①】 ・事物の内容を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉を用いるよう指導する。 形成的評価 文末「確認する。」	【知・技①】《総》 カード ・事物を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用ができるか状況を記録する。
4 (本時)	○ 夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く。 ※ワークシート① ○ 友達と交流した上で、カードの並び順を見直し、その順序で報告しようと決めた理由をワークシート②に書く。 ※ワークシート②	・物事や対象について伝わりやすくなるか並べるなどの時間的な順に並べるなどの事柄の順序)について例を示す。 ・友達が並べたカードの順序と比べてみたり、友達と相談をしたりしながら、並べる順序を考えよう促す。 ・最初の並び順から交流後に決めた並び順になった過程を振り返り、交流後の並び順に決定した理由を書くことができるようする。	【思・判・表①】《総》 ワークシート① ・カードの並び順とその順序にした理由が書けているかを記録する。
5 三 次	○ 声に出して、夏休みの思い出について報告する練習をする。	・互いの話し方(声の大きさや速さ)について、特に良いと思ったところを伝え合うようにする。	【主体的態度①】《総》 観察 ・声の大きさや速さ、発音に気をつけて練習しているか確認する。
6 ・ 7	○ グループ内で夏休みの思い出について報告し合い、質問する。報告が終わったら、ワークシート③に感想を書く。 ※ワークシート③ ○ 夏休みの思い出を報告するという学習を通して学んだことを振り返る。	・グループ編成に際しては、前時で交流していないかった児童に報告できるよう配慮する。 ・聞き手は、話し手が伝えたいことを落とさないように聞き、その内容を踏まえて自分が感じたことをワークシート③の感想欄に記述するように指導する。 ・本単元の目標に則して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。	【思・判・表②】《総》 ワークシート③ ・話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想を書いているか記録する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

## 5 本時の学習指導について

- (1) 本時の目標  
 ・1つか2つにしぼっているか。  
 ・単元目標と合致しているか。
- (2) 授業仮説  
 「○○○において、○○○すれば、○○○になるであろう。」  
 場・内容の限定  
 投入条件  
 方法・手立て  
 身に付けさせたい力（資質・能力）  
 ねらい・めざす子ども
- (3) 本時の展開（第4時）教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学習活動	指導上の留意点 <input type="radio"/> 教師の手立て <input type="checkbox"/> 予想される児童（生徒）の反応	評価項目（方法）
導入（分）	1  具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。	<input type="radio"/> 下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を確認し、児童生徒に学習の見通しをもたせるような、「めあて」を児童生徒向けの言葉で提示する。</li> <li>児童生徒の学習意欲を促すような資料、問題提示の工夫する。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 単元の評価規準を具体化し、本時において1～2観点を評価する。
展開（分）	2  めあて		<p>〈概ね満足〉          【思・判・表①】《総》          ワークシート①          ・相手に伝わりやすくなるためにどのような順序（時間的な順序や事柄の順序）がよいかを考え、まとめている。          【主体的態度①】《総》          観察          ワークシート②          ・友達や教師との関わりを通して並び順を見直している。</p> <p>〈十分満足〉          【思・判・表①】《総》          ワークシート①          ・時間的な順序や事柄の順序を考えるとともに、聞き手に与える印象や効果まで含めた理由を記述している。          【主体的態度①】《総》          観察          ワークシート②          ・自分の経験を振り返りながら友達の助言を参考に試行錯誤している。</p>
まとめ（分）	3 (1)  「授業仮説」につながる学習活動は分かりやすく表記する。（例：太字ゴシック体等）  (2)  〔支援を要する児童生徒への手立て〕  (3)		
	4  まとめ		
	5  ・「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で「何を学んだか」を明確にする。児童生徒の言葉を生かしてまとめる。 ・本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題などについて、児童生徒に振り返らせる。		

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

(4) 板書計画（写真も可・項目だけでなく、実際に板書することを書く・ICT機器の活用について）